柏崎税務署管内税務協力関係団体協議会長賞

『地域に寄り添った税金の使い道』

新潟県立柏崎翔洋中等教育学校　四年　桑山　莉海

高校生の私にとって一番身近な税金は消費税だ。私たちは買い物をするたびに飲食料品なら八パーセント、その他の商品なら十パーセント分の消費税を支払っている。逆に言えば、私はその他にどんな種類の税金があるかについてはよく知らない。

税の作文を書くにあたって、親にどんな税金を納めているのか聞いてみた。すると、所得税や住民税など全国の大人は多くの税金を納めていることがわかった。また、税金で受けられるサービスについても聞いてみると、地域によって受けられるサービスに格差があることに気がつき詳しく調べてみた。

例えば、子どもの医療費だ。私が住んでいる柏崎市は十八歳に達した日以降の最初の三月三十一日まで五三〇円なのに対し、東京二十三区などでは、同じ年齢の対象上限で無料としている。また、新潟県では二〇二六年四月から柏崎市と糸魚川市を除く二十八の市町村で公立小学校の給食費無償化が開始された。

ここで私は、こんなにも多くの種類の税金を納めているにも関わらず、サービスに格差が生まれてしまうことに不公平感を覚えると同時になぜ格差が生まれるのか疑問に思い、調べてみた。

すると、その要因は大きく二つあった。

一つ目は、人口についてだ。東京都などの大都市は地方に比べ人口が多い。それだけでなく、大都市の生産年齢人口の割合が地方圏より高いことや、多数の企業が存在していることで所得税や住民税、法人税などの税収が増え、都道府県全体の歳入も増える。しかし地方は、少子高齢化と若年層の都市部流出により生産年齢人口が減少し、労働力不足などに陥り、大都市に比べて歳入が少ない。

二つ目は、その地域によって納められた税金の使い道が異なるからだ。新潟県は冬の道路除雪や消雪パイプの維持管理に多額の税金を使っている。さらに、先ほどの給食費無償化の例で柏崎市が無償化しない理由について調べると、柏崎市は十五歳未満の子どもの人口が県平均を下回っているため、乳幼児の保育料無料化を行っていることがわかった。また、糸魚川市は子どもの医療費の無償化や出産時の交通費の助成を実施している。

私は、この二つ目の理由が特に大切だと思う。なぜなら、私は最初他の地域とのサービスの違いを不公平だと思ったが、調べていくうちにその地域の課題に合わせた税金の使い道の工夫だということに気がついたからだ。そのため、この工夫をもっと多くの人に知ってもらう必要があると考える。

具体的には、学校の授業で自分の地域の税金の使い道を他の地域と比較しながら調べることだ。これにより、税金の使い道から地域が抱えている課題を知り、周りの人と話したりボランティアに参加したりと行動を起こすきっかけになると思う。

一人一人が自分の地域の税金の使い道に関心をもって納税する社会が私の理想だ。